

磐城時報

編輯 石城郡平町屋敷町十四
印刷 石城郡平町屋敷町十四
發行 石城郡平町屋敷町十四
電話 一四七五
代金 一月一元 三月三元 半年五元 一年十元
廣告料 一行一文字一ヶ月五拾銭
印刷 一行一文字一ヶ月五拾銭
電話 一四七五

若松市議當選者 民政黨十六名に達す

(若松電話) 若松市議員は四日執行午後十時十分終了左の如く民政十六名、政友九名、中立五名である。

- 二五〇 富岡 秀一(民前)
- 二二七 渡邊 龍八(同)
- 二二七 龜谷 輝雄(民新)
- 二二七 後藤喜代之助(民前)
- 二二七 森川 孫藏(中前)
- 二二七 佐藏 定英(政前)
- 二二七 岩崎 光衛(民前)
- 二二七 五十嵐 常藏(政新)
- 二〇二 早坂 助榮(民前)
- 一九九 長谷川 敬助(中前)
- 一九三 川島 榮一郎(民新)
- 一八一 笠風 佐久(中前)
- 一八〇 中村 教祐(中前)
- 一八〇 大須賀 末八(中前)
- 一八〇 藍谷 元四郎(民前)
- 一七八 小林 喜四郎(中前)
- 一七七 小島 忠右衛門(民前)
- 一七六 齋藤 鐵次(同)
- 一七〇 穴澤 政吉(同)
- 一六二 栗田 秀藏(政新)
- 一六〇 五十嵐 忠藏(政前)
- 一五九 中野 善太郎(同)
- 一五九 中野 晴日子(同)
- 一五八 栗村 五郎(政前)
- 一五四 岩田 耕(民前)
- 一五〇 山田 善助(同)
- 一四六 大島 半兵衛(政前)
- 一四六 伊藤 慶壽(同)
- 一二八 菊地 健藏(民前)
- 一二五 畑 喜代藏(民前)
- ▲次点
一三三 森 直八(政前)
- 外 十一名

平署訪問

整理は行はず 諒解を求む

石城郡内郷村磐城炭礦では事業不振の結果現在より更に大々的の事業縮小を断行する事に決定したと某方面から最近頻々と傳へられるので従業員は固より關係者並びに一般から非常に注目され、その結果として、二日午後二時同様に開催各學級の教授方法視察、一般教育受持學級に訪れ現在の所かゝる事實は全く無いと語り諒解を求むるところがあつた。

電話の申込は 僅か七名しかない

不況に局員も呆れる 全部無抽籤で架設か

平郵便局の本年度電話架設の申込みは去る五月二十六日から受付を開始したが、本年は財界不況のためか申込者殆んどなく五日の締切までに僅か七口の申込みしかなく、昨會に動議として提案されたが、磐城海岸には淡水港なく各漁船が不便を感じてゐる矢先きであるため之が實現のため同町有志等目下奔走中である。

民業製炭 欠損状態

平營林署の官行製炭事業は木炭の安値から収支償はず檜割四貫匁一俵地元間屋渡のし六十銭の安値で之れを民業製炭に比するといへば十銭内外の高値に當る之は品質が良いのと安値手放しをせぬ結果であるが民業者は夏枯期に當面し打撃は一層深刻となり、是れれ欠損状態にあつた。

父兄懇話會 平第一小

石城郡小名濱町大敷網は数日前補助を仰がねば改修不可能な状態に於て、四日午後メツマツに村會を決議し昨秋陳情請願し見聞課長も既に檢分して格約二萬圓に達したが、石城海岸では昔聞村に於ては過般網薄永を踏む思ひで通行し村民及石城七濱は非常な活況を呈してゐる。

四倉の角網 再び制限外に投入で 磐城丸に命じて注意

既報石城郡四倉漁業組合の角網ゆる二千四百三十間の沖合まで漁業は過般網に於て調査したと投網の設備をなしてゐるとの電報が投網が免許範囲を超えてる報に接したので縣は直に磐城丸に命じて、再度警告を發する一方警告を發し、その後も水産試験引續き監視を嚴命したが、縣は場長に命じて監視中であつたが、今度こそ警告を無視して投網せしめ、四日同場から依然として縣の警は斷乎たる最後の處分に出ると告をきかす免許範囲を五百間超え云つてゐる。

小名濱大敷網で 鯛一萬本漁獲

石城七濱活況を呈す

石城郡小名濱町大敷網は数日前補助を仰がねば改修不可能な状態に於て、四日午後メツマツに村會を決議し昨秋陳情請願し見聞課長も既に檢分して格約二萬圓に達したが、石城海岸では昔聞村に於ては過般網薄永を踏む思ひで通行し村民及石城七濱は非常な活況を呈してゐる。

山田川の橋で 村當局を非難

石城郡植田町仁井田より分岐し山田川に架ける橋梁は昨年十月の出水に橋柱朽落せる僅かの修理にて交通を續けてゐるが同道路は勿來、棚倉線の縣道以上の田人、貝泊、荷路夫の山村に物資運搬、生産搬出の頻繁なる樞要道路にして毎日定期自動車も十數回往復に危険冒して交通しつゝあり村當局も非常山田村村長下山田嘉一郎氏を訪

君の計報手に据りつゝ、稼働より走り出んとせし吾れにてありき 君逝きし君逝きしことの眞にあらじひたに念じつゝ發つ 君と吾れ心ゆく迄高らかに歌ひしことの夢とはなれり 安らかに眠る君のみ靈は取りし日のうはき日に消えうせぬ君逝きてはや一月あまり 此の朝もヒヤシンス等手折り來ぬ父の笑顔のはれやかなり

淡水港計画

石城郡植田町仁井田より分岐し山田川に架ける橋梁は昨年十月の出水に橋柱朽落せる僅かの修理にて交通を續けてゐるが同道路は勿來、棚倉線の縣道以上の田人、貝泊、荷路夫の山村に物資運搬、生産搬出の頻繁なる樞要道路にして毎日定期自動車も十數回往復に危険冒して交通しつゝあり村當局も非常山田村村長下山田嘉一郎氏を訪

申請を陳情して居り約二千圓の經費であるが縣の豫算が緊縮されてゐる爲延期するものと思はれる、或は出縣陳情運り過般行つた職業紹介の成動でもすれば相當促進するも續について調査した。

謹告

本社主催第二回縣下中等學校野球大會を左の如く開催致します。

- 一日時六月二十二日
- 會場 平町磐城中等學校球場
- 本年參加校
- 磐城中等學校 田村中等學校
- 雙葉中等學校 安積中等學校
- 相馬中等學校

一、試合方法 優勝戦
一、試合球 神戶丸善製オール ジャパンリングボール

三井炭礦の雜夫が 所長を説諭して呉れ

石城郡磐崎村三井炭礦長屋第十から病氣となり、本年五月五日五號ノ四居任朝鮮人金子榮一事解隨されたが、業務上の疾病解金俊(四二)は三井炭礦々業所長 雇者には百八十日分を支給する伊藤孫植を相手取つて五日平署に訴へた、金圓九十錢を支給したのみである、後は大正十五年六月八日三井炭から説諭して貰ひ度いといふに

